

令和3年度 教育事務の点検・評価報告書 (令和2年度対象)

竹 富 町 海 洋 教 育 推 進 事 業

黒島小学校と小浜小学校の交流学习



場所:黒島小学校体育館

黒島小学校と小浜小学校の交流学习



場所:黒島仲本海岸

鳩間小中学校 星砂学習



場所:鳩間島

鳩間小中学校 星砂学習



場所:鳩間島

竹富町教育委員会

報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、令和2年度における竹富町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果を報告する。

令和3年8月

竹富町教育委員会

■地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

■竹富町教育委員会で扱う事務は、おおむね次のとおりである。

- 1 町立学校等の設置及び統廃合に関すること。
- 2 学級教材、教具の整備に関すること。
- 3 町立学校等の施設、設備及び管理、備品に関すること。
- 4 教育財産の管理及び財産台帳の整備保管に関すること。
- 5 教育委員会事務局及び教育委員会の所管する職員の任免その他、人事に関すること。
- 6 文化財に関すること。
- 7 町史編集に関すること。
- 8 学齢児童、生徒、園児の就学猶予並びに転退学、その他学籍に関すること。
- 9 教科書の採択、給与事務に関すること。
- 10 町立幼稚園に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 社会教育に関すること。
- 13 生涯学習及びスポーツの振興に関すること。
- 14 青少年の健全育成に関すること。

目 次

はじめに	3
教育委員会委員名簿	4
外部評価委員(学識経験者)	4
教育主要施策体系	5
教育委員会の活動	6
(1) 教育委員会の概要	6
(2) 教育委員会の会議等の状況	6
(3) 教育委員の情報収集状況	10
(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置	10
(5) 教育費の状況	11
令和2年度 教育事務の点検評価	12
1 点検評価対象年度	12
2 点検評価内容	12
(1) 幼稚園、学校教育の充実	
(2) 社会教育・スポーツの充実	
(3) 伝統文化の保存と継承	
(4) 町史編集	
(5) 教育行政の充実	
3 点検評価の方法	13
教育事務事業点検評価	14
点検評価の結果一覧表	14
・事務事業点検評価シート	15
教育事務点検総合評価	37
教育委員会の機能充実	37
幼稚園・学校教育の充実	37
新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業	38～44

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部が改正され、平成27年4月1日より施行されています。

教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図ることが目的とされております。

そこで、法律第1条第3項の規定に基づき、本町の教育及び文化の振興に関する大綱を次のとおり定めました。

その基本理念・基本目標は、「日本最南端の大自然と文化のまちづくり(島々の自然が生きる町づくり、島々の文化が息吹く町づくり、島々の発展とともに未来にはばたく町づくり)」を町政運営の基本姿勢のもと、活力ある人材育成の現実、生きがいのある豊かな生涯学習社会の実現に向けた教育及び文化の振興を目標に教育行政を推進してまいりました。

○自ら学ぶ意欲と豊かな心の育成

○子育て支援などの課題への対応

○スポーツの振興

○伝統文化の継承発展及び文化活動の支援

令和2年度は国内外で感染拡大している新型コロナウイルスの影響で学校活動、学校支援、行事等が制限される中でありましたが、可能な限りの事務事業を実施し、効果的な教育行政の推進と、教育活動を実施してまいりました。その状況等について町民への説明責任を果たすため、教育事務の点検及び評価を行い、この報告書にまとめました。

報告書は、点検・評価の客観性や中立性を確保するため、各担当課職員が事業執行概要等を評価シートで作成し「事務点検評価委員会」による内部評価を行い、その後、外部評価委員(学識経験者等2名)が担当職員にヒアリングを実施し、各事業の評価をしていただきました。

■教育委員会委員名簿（令和2年度在籍）

（令和3年3月31日現在）

職 名	氏 名	任 期	
教育長	仲 田 森 和	平成30年10月1日～令和3年9月30日	任期3年 (2期目)
委 員 (教育長職務代理)	島 村 賢 正	平成27年10月1日～令和5年9月30日	任期4年 (2期目)
委 員	西 表 一	令和元年7月1日～令和4年9月30日	任期4年(1期目) 前任の在任期間
委 員	上勢頭 輝	平成29年4月1日～令和5年3月31日	任期4年 (2期目)
委 員	仲新城 理香	平成30年10月1日～令和4年9月30日	任期4年 (2期目)

■外部評価委員(学識経験者)

職 名	氏 名	任 期	
委 員	佐 事 安 弘	令和3年8月1日 ～ 令和4年3月31日	任期1年 (3期目)
委 員	浦 崎 喬		任期1年 (1期目)

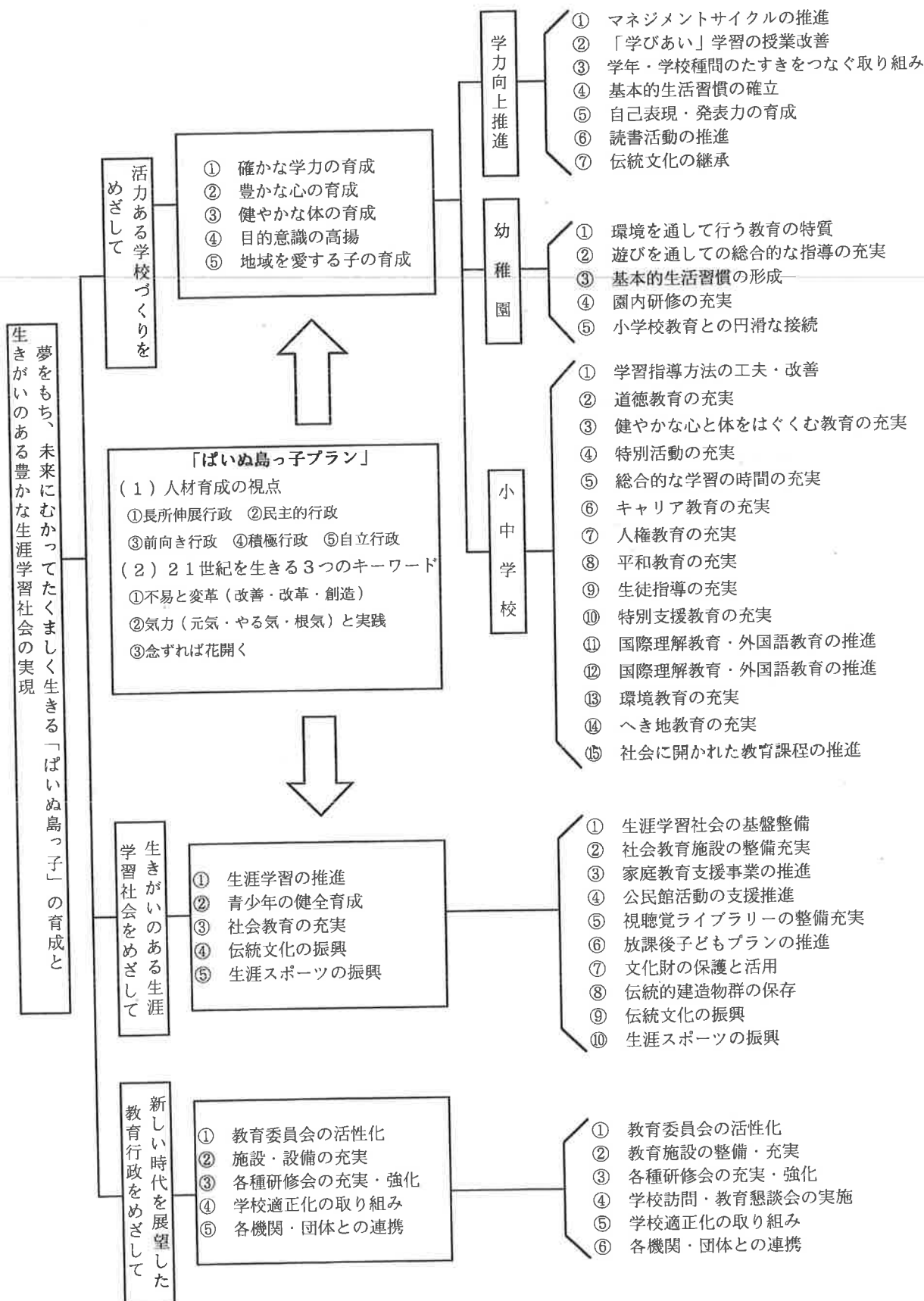
■教育主要施策体系

竹富町教育委員会

【目標】

【努力点】

【努力事項】



1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の概要

教育委員会制度の改革により、平成27年10月1日より教育委員長と教育長を一本化した「教育長」が設置され、教育長と委員(4名)で組織する合議制の実行機関であります。

また、総合教育会議は首長と教育委員会が教育施策について協議・調整の場です。これにより、首長が教育行政に果たす責任や役割が明確になり、首長と教育委員会が協議・調整することにより、これまで以上に両者の連携が図られ、教育施策の推進が可能になります。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会の代表(会議の主宰者、具体的な事務執行責任者、事務局の指揮監督者)となり、その任期は3年となっています。

(2) 教育委員会の会議等の状況

本町教育委員会においては、奇数月1回の定例会と随時開催の臨時会の開催と自主研修を実施し、事務局と連携しながら施策を推進してきました。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により各種行事が中止、縮小となり又、視察等についても中止、書面開催となりましたが、学校支援訪問等により本町教育行政の推進に努めてまいりました。沖縄県市町村教育委員会連合会や八重山地区市町教育委員会協議会の総会・研修会等への参加については、オンライン会議等で参加するなど県内各地区の教育委員と意見交換を行い教育委員会が直面する課題解決のため、教育行政について研修を実施してまいりました。

地方教育行政法第26条及び「教育長に委任する事務等に関する規則」第2条の規定に基づき54件審議いたしました。

総合教育会議については、令和2年度は開催されていません。

令和2年度の会議開催、付議事件及び内容は次のとおりであります。

	開催数	付議件数
定例会	6回	53件
臨時会	1回	1件
計	7回	54件

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
第5回 (定例会)	令和2年 5月27日	報告第20号	臨時代理について	承認
		報告第21号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第22号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第23号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第24号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第25号	臨時代理について	承認
		報告第26号	臨時代理について	承認
		報告第27号	臨時代理について	承認
第6回 (定例会)	令和2年 7月27日	報告第28号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第29号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第30号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第31号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第32号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第33号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第34号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第35号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第36号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第37号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第38号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第39号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第40号	竹富島歴史的景観保存区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第41号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第42号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第43号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第44号	臨時代理について(竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区保存活用計画及び竹富町竹富島歴史的景観保存地区保存計画の改定について)	承認

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
		報告第45号	竹富町伝統的建造物群保存地区等保存審議会委員の委嘱について	承認
		議案第10号	竹富町立学校教員宿舍管理規則の一部を改正する規則について	可決
		議案第11号	令和3年度竹富町中学校教科用図書の承認について	可決
第7回 (定例会)	令和2年 9月30日	報告第46号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可11号)	承認
		報告第47号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第48号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第49号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第50号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第51号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		議案第12号	竹富町立学校管理規則の一部を改正する規則について	可決
		議案第13号	竹富町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について	可決
第8回 (定例会)	令和2年 11月26日	議案第14号	竹富町特別支援教育支援員配置実施要綱の一部改正について	可決
		議案第15号	竹富町海洋教育推進委員会設置要綱の一部改正について	可決
		議案第16号	GIGAスクール構想の実現に向けた計画について	可決
第1回 (定例会)	令和3年 1月29日	報告第1号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第2号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第3号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
第2回 (臨時会)	令和3年 2月22日	議案第1号	令和3年度県費負担管理職員人事異動発令について	可決
第3回 (定例会)	令和3年 3月29日	報告第4号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可12号)	承認
		報告第5号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可13号)	承認
		報告第6号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可14号)	承認
		報告第7号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可15号)	承認
		報告第8号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第9号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第10号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第11号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
		報告第12号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第13号	臨時代理の承認について	承認
		議案第2号	竹富町社会教育委員の委嘱について	可決

(3) 教育委員の情報収集状況

教育委員会は、新型コロナウイルスの影響により、各種研修会等が中止されるなど制限を受けましたが、学校支援訪問、事務局からの教育行政情報収集、専門知識収集のためオンラインによる研修会等への参加、他市町村教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のため、教育委員会連合会及び教育長協会などへの参加を通して教育関連情報の収集に努めました。

	内 容	件 数
1	課題施設等の視察	0件
2	学校等支援訪問(施設)	小中学校13、幼稚園3、
3	研修会等への参加	8回 (市内7、Web1)
4	学校等行事への参加	入学式、卒業式、運動会、 学習発表会、その他
5	会議等への参加(教育長)	41回 (県外1、本島1、市内28、町内6、Web5)
6	その他 (教育委員会月報、時報市町村教委)	

(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置(令和3年3月31日現在)

課名	職名	係名	人員
総務課	課長1 課長補佐1	総務係	3 (1)
		施設係	1 (0)
教育課	課長1 課長補佐1	教育係	4 (7)
社会文化課	課長1 課長補佐兼係長1	社会教育係	0 (1)
		社会体育係	1 (1)
		文化財係	3 (2)
		町史編集係	2 (1)
合計	6		14 (13)

()は再任用、会計年度、ALT等

(5) 教育費の状況

■教育費の推移

項目／年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31(令和元)年度	令和2年度
教育費	1,144,295 千円	1,438,787 千円	1,793,248 千円	1,431,315 千円	996,212 千円
1人当たり教育費	275,867 円	326,848 円	425,041 円	337,734 円	236,069 円
各年度3月末人口	4,148 人	4,402 人	4,219 人	4,238 人	4,220 人

■令和2年度教育費の内訳

(歳入)

1	分担金及び負担金	86 千円
2	使用料及び手数料	3,850 千円
3	国庫支出金	53,199 千円
4	県支出金	44,458 千円
5	財産収入	101 千円
6	寄付金	50 千円
7	繰入金	4,389 千円
8	諸収入	19,031 千円
9	町債	335,500 千円

(歳出)

1	総務管理費	5,800 千円
2	沖縄振興特別推進交付金事業	21,767 千円
3	教育総務費	245,270 千円
4	小学校費	187,892 千円
5	中学校費	148,188 千円
6	幼稚園費	132,215 千円
7	社会教育費	190,237 千円
8	保健体育費	64,740 千円
9	文教施設災害復旧費	0 千円
10	基金費	103 千円

■令和2年度の主な事業(教育関連)

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| 1 竹富町海洋教育推進事業 | 8 特別支援教育支援員配置事業 |
| 2 学力向上推進 | 9 外国語指導助手(ALT)派遣事業
(外国青年招致事業含む) |
| 3 遠隔教育等に対応する指導者用端末整備事業 | 10 町外等派遣費補助事業
(沖縄振興特別推進交付金) |
| 4 竹富町内学校ICT支援員派遣事業 | 11 離島高校生修学支援事業
(離島高校寮生修学援助奨励事業) |
| 5 公立学校情報機器整備事業 | 12 ふるさと応援奨学金 |
| 6 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営 | |
| 7 幼稚園預かり保育事業 | |

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 放課後子ども教室委託事業
- 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 社会教育団体育成補助事業

(3) 伝統文化の保存と継承

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 文化財美化保全(一括交付金事業) | 4 旧与那国家住宅保存修理 |
| 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全 | 5 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業 |
| 3 史跡等活用整備事業 | |

(4) 町史編集

- 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 学校施設等の維持管理

令和2年度 教育事務の点検評価

1 点検評価対象年度 令和2年度

2 点検評価内容

点検評価内容については、教育事務点検評価委員会による内部評価及び学識経験者等による外部評価とし、「幼稚園・学校教育の充実」、「社会教育・スポーツの充実」、「伝統文化の保存と継承」、「教育行政の充実」について行った。

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 竹富町海洋教育推進事業
- 2 学力向上推進
- 3 遠隔教育等に対応する指導者用端末整備事業
- 4 竹富町内学校ICT支援員派遣事業
- 5 公立学校情報機器整備事業
- 6 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 7 幼稚園預かり保育事業
- 8 特別支援教育支援員配置事業
- 9 外国語指導助手(ALT)派遣事業(外国青年招致事業含む)
- 10 町外等派遣費補助事業(沖縄振興特別推進交付金)
- 11 離島高校生修学支援事業(離島高校生修学援助奨励事業)
- 12 ふるさと応援奨学金

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体育成補助事業

(3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)
- 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 3 史跡等活用整備事業
- 4 旧与那国家住宅保存修理
- 5 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業

(4) 町史編集

- 1 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

(6) 教育事務点検総合評価

- ・ 教育委員会の機能充実
- ・ 幼稚園・学校教育の充実

(7) 新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 ホームステイ事業 | 5 球技大会 |
| 2 英語サマースクール | 6 やまねこマラソン大会 |
| 3 小学校集団宿泊学習 | 7 国土交通大臣杯 |
| 4 学校給食担当者研修会 | 全国離島交流中学生野球大会 |

3 点検評価の方法

評価については、事業種目ごとに点検評価シートを作成し、評価基準を設定して、複眼的視点による評価を試みた。評価における評価基準及び総合評価基準については次のとおりとする。

(1) 評価基準

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い。	投入コストに比べ活動量が非常に高い。	成果が非常に高い。	事業規模拡大が望まれる。
3	教育委員会が関与する妥当性が高い。	投入コストに比べ活動量が高い。	成果が高い。	事業規模の維持が望まれる。
2	教育委員会が関与する妥当性が低い。	投入コストに比べ活動量が低い。	成果が低い。	事業規模の縮小が望まれる。
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い。	投入コストに比べ活動量が非常に低い。	成果が非常に低い。	廃止又は休止が望まれる。

(2) 点 数

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

教育事務事業点検評価

令和2年度教育事務点検評価の結果一覧表

主要施策	事業名	担当課	内部評価	外部評価	ページ
幼稚園・学校教育の充実 	1 竹富町海洋教育推進事業	教育課	A	A	15
	√2 学力向上推進	〃	A	A	16
	3 遠隔教育等に対応する指導者用端末整備事業	〃	A	A	17
	4 竹富町内学校ICT支援員派遣事業	〃	A	A	18
	5 公立学校情報機器整備事業	〃	A	A	19
	6 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	〃	A	A	20
	7 幼稚園預かり保育事業	〃	A	B	21
	8 特別支援教育支援員配置事業	〃	B	B	22
	9 外国語指導助手(ALT)派遣事業(外国青年招致事業含む)	〃	A	A	23
	10 町外等派遣費補助事業(沖縄振興特別推進交付金)	総務課	A	A	24
	11 離島高校生修学支援事業(離島高校生修学援助奨励事業)	〃	A	A	25
	12 ふるさと応援奨学金	〃	A	A	26
社会教育・スポーツの充実	1 放課後子ども教室委託事業	社文課	A	A	27
	2 生涯学習委託事業(社会教育学級)	〃	A	A	28
	3 社会教育団体育成補助事業	〃	A	A	29
伝統文化の保存と継承	1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)	〃	A	A	30
	2 伝統的建造物群保存地区の景観保全	〃	B	B	31
	3 史跡等活用整備事業	〃	A	B	32
	4 旧与那国家住宅保存修理	〃	A	A	33
	5 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	〃	A	A	34
町史編集	1 町史編集事業	〃	A	A	35
教育行政の充実	1 学校等施設の維持管理	総務課	B	B	36
教育事務点検総合評価	・ 教育委員会の機能充実	-	-	-	37
	・ 幼稚園・学校教育の充実	-	-	-	37

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町海洋教育推進事業		担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	13,065 千円	15,380 千円	12,817 千円	
事業概要	島嶼型海洋自治体である本町の児童生徒が、海洋についての理解と関心を深め、将来にわたり海洋の恵沢を享受できるよう海洋教育を推進する。			
(1) 対 象	竹富町内各小中学校			
(2) 目 的	海洋教育を通して竹富町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海と共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する。			
(3) 事業内容	令和元年度から令和3年度までの3年計画であり、竹富町海洋教育基本計画の策定や竹富町海洋教育副読本の作成、各校へ海洋教育推進事業補助金の交付等を行い、海洋教育を推進する。			
(4) 成果目標	令和2年度の成果目標 ①竹富町海洋教育副読本の刊行 ②各校へ竹富町海洋教育推進事業補助金の交付			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 新型コロナウイルスの影響により、当初計画通りには活動ができない状況であったが、オンラインを活用したり、規模を縮小したりするなどの対策をとりながら、活動を継続することができた。 また、前年度は、9校のみであった活動校も、13校全体となり、補助金を町内全校へ交付することもできた。町内全学校共通の取り組みとして、ビーチクリーンの実施等、竹富町としての一体感を醸成するための取り組みを実施することができた。 また、全国で初となる海洋教育副読本を刊行した。			
	【課題等】 令和2年度において、海洋教育を通じた、竹富町としての一体感を醸成をテーマとしていたが、コロナの影響により学校間の交流や、発表の場を作ることが難しい1年であった。 令和3年度においても、新型コロナウイルスの影響により活動が制限されることが予想されるが、計画の最終年度として、竹富町海洋教育サミットの開催を計画し、竹富町としての一体感を醸成する取り組みを行いたい。			
外部評価	二年次の事業計画であった「竹富町海洋教育副読本」が刊行されたことは、大きな成果として取り上げられる。また、全学校において事業の活動がなされたことにも、目標達成がなされたと判断できる。特に、新聞紙上での活動の掲載は全町民に事業目的が周知され、保護者への理解が進んだと思われる。引き続き、最終年次の「まとめ」の取り組みを推進することに期待したい。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学力向上推進	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	1,504 千円	917 千円	1,613 千円
事業概要	町内を9つの地区に分け、各公民館長を委員長とした地区学力向上推進委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が連携して、子ども達の「生きる力」を育み、将来に夢を持ち目標を立て努力し、社会の創り手となる人材育成を推進する。		
(1)対象	幼児・児童・生徒、教職員、PTA、地域		
(2)目的	学校、家庭、地域、行政が一体となって、幼児・児童・生徒一人ひとりに「生きる力」につながる「確かな学力」の向上を図る取組みを推進する。		
(3)事業内容	1.町学力向上推進委員会及び実践報告会(誌面開催) 2.各地区学力向上推進委員会総会及び実践報告会 3.教育講演会(感染拡大防止の観点から中止) 4.標準学力検査、中3実力テスト実施 5.学校支援訪問等での指導助言		
(4)成果目標	① 竹富町学力向上推進要項に基づき、「ばいぬ島っ子プラン2020年度版」を推進し、9つの各推進委員会の取組充実を図る。 ② 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査等で全国平均・県平均正答率を上回る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 9つの各地区においては、コロナ禍でも感染対策を講じながら地域の物的資源・人的資源を結びつけた地域総ぐるみの学力向上が推進された。 ② 学校支援訪問等において、授業についての指導助言を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図ることができた。 ③ 中3学力調査及び県学力到達度調査において、小学校・中学校ともに実施したすべての学年・教科で県平均正答率を上回った(令和2年度全国学力・学習状況調査の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止)。 ④ 町内の中学3年生全員が高校受験で合格できた。		
	A	【課題等】 ① 新学習指導要領全面実施に向けた教育課程編成の工夫改善 ② 地域に開かれた教育課程(多様な人々とのつながりや地域・社会と結びついた授業づくりの見直し。主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践の推進 ③ 自律・自立教育(自分で考え、自分で判断し、自分で行動することができる)の徹底 ④ コロナ禍における諸活動の工夫・実践	
外部評価	従来からの地域学力推進委員会が継続しており、学校・保護者・地域が連携して学力向上を推進できていることは大いに評価できる。特に、新学習指導要領のコアな部分である「社会に開かれた教育課程」は地域との密接な関係が重視されている。これを踏まえ、「令和の日本型教育」の構築を推進し、子ども達の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現し、学力向上をさらに推進して欲しい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	遠隔教育等に対応する指導者用端末整備事業		担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	0 千円	26,531 千円	0 千円	
事業概要	町内各小中学校及び幼稚園へ遠隔教育等に対応する情報機器を整備する。			
(1) 対 象	竹富町内各小中学校及び幼稚園			
(2) 目 的	新型コロナウイルス感染症等による休校に備え、有事の際にオンラインを用いた遠隔教育を円滑に実施することや、本町の1町多島という特性において、有事の際におけるWeb会議を活用した迅速な情報共有やオンライン研修会等の新たな時代の働き方に対応するため、適切な動作環境を有する情報機器を整備する。			
(3) 事業内容	・GIGAスクール構想に伴う児童生徒1人1台端末 整備と合わせ、指導者用Chromebookの整備 ・各教職員等が使用する校務用PCで適切な動作環境に満たないPCの入替			
(4) 成果目標	・町内各校へ、指導者用Chromebook93台の整備 ・町内各校及び各園において、適切な動作環境に満たない校務用PC126台の入替			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 GIGAスクール構想の実現に向けた1人1台端末 整備を行う公立学校情報機器整備事業と合わせ、本事業において指導者用のChromebookを町内各校の各学級へ合計93台整備することができた。 また、町内の各校及び各園で教職員が使用する校務用PCの多くがWindows7と古く、サポートの終了や各ソフト等の動作環境に適さない為、コロナ禍での移動制限や休校等によるオンライン活用に対応するため、126台のPCを入れ替えることができた。 これらにより、町内の教育現場において今後、感染症等による休校や移動制限時に遠隔授業やWeb会議に対応することができ、子供たちの学習機会を確保することができる。			
	【課題等】 機器の整備は完了したが、遠隔授業やWeb会議に慣れていない教職員も多いため、ICT支援員による支援や指導等を行い、教職員の習熟度の向上も図る必要がある。 また、今回、本事業や他の事業において、多くの情報機器を町内の教育現場に整備しているため、機器の管理を徹底するとともに、効果的な活用を図っていきたい。			
外部評価	今般の新型コロナウイルス感染を踏まえ、新たな感染症や災害の発生時に、子ども達の「学びの保障」を担保するためには、遠隔授業やオンラインでの授業が重要となる。そのための機器設置ができたことは評価できる。今後はこれまでのICTとの効果的な活用が望まれるので、教職員の研修を積極的に実施して欲しい。また、過失等で機器の破損等があった場合において、できる限り自己負担がないようなバックアップも考えて欲しい。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町内学校ICT支援員派遣事業	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	4,452 千円	8,461 千円	10,051 千円
事業概要	学校現場において、教育ICT機器の効果的な活用や日常的に発生する機器の不具合等の問題に迅速に対応することが望まれており、十分な知識と対応力をもつICT支援員を町内の各小中学校及び幼稚園へ派遣する。		
(1) 対 象	竹富町内全小中学校及び全幼稚園		
(2) 目 的	児童生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業を実現するため、竹富町内の各小中学校及び幼稚園へICT支援員を派遣する。		
(3) 事業内容	各小中学校及び幼稚園へICT支援員を派遣し、以下の業務を行う。 ①ICT機器のメンテナンスや、管理・運用に関する助言 ②ICT機器に関する教員向けの研修会の実施 ③ICT機器の活用実績の集計、分析及び教育委員会への定期的な報告等		
(4) 成果目標	①各校及び各園へ月に1回以上のICT支援員派遣 ②各校における教育ICT機器の適切な管理・運用 ③情報モラルの指導・助言		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 令和2年度において、ICT支援員をこれまでの1名から2名へ増員した。 これにより、学校への派遣回数も前年度に比べて倍近く増え、各校へのICT支援をきめ細やかに実施することができた。 また、GIGAスクール構想による端末整備に向けた研修会を各校で実施したことや、GIGAスクール端末の納品立会及び初期設定等において支援員としての立場で各学校現場を適切にサポートすることができた。		
	【課題等】 2名体制を維持するための財源確保が重要となることや、令和2年度末に整備したGIGAスクール端末や、校務用PC等の活用に向けた支援を強化する必要がある。 次年度においても、2名体制を維持し、各校における情報機器の活用が活発になるよう、事業を継続していく必要がある。		
外部評価	コロナ禍の中、GIGAスクール構想の推進は喫緊と成っておりそれに伴う、機器操作や学習への利用方法など学校への支援は必須である。本事業がその一翼を担う事業であり、継続して事業を展開して欲しい。特に、学校からの要望には迅速に対応し、直接訪問してのアドバイスができない場合は、遠隔、オンラインでの助言等を積極的に実施して欲しい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	公立学校情報機器整備事業		担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	0 千円	23,077 千円	0 千円	
事業概要	GIGAスクール構想の実現に向けて、町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器整備を行う。			
(1) 対 象	竹富町内各小中学校			
(2) 目 的	多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指す国の施策「GIGAスクール構想」の実現に向け、町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器を整備する。			
(3) 事業内容	・児童生徒1人1台端末の整備 ・家庭学習のための通信機器の整備			
(4) 成果目標	・児童生徒1人1台端末470台の整備 ・家庭学習のための通信機器61台の整備			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 当初、5カ年計画であったGIGAスクール構想であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により令和2年度内での全面実施となった。そのため、全国で情報機器整備が一斉に実施され、需要過多による機器や部品の供給不足が発生し、納期の延長等はあったが、1人1台端末としてChromebook470台、家庭学習のための通信機器としてモバイルWi-Fi61台をそれぞれ年度内に整備することができた。			
	【課題等】 情報機器の整備が完了したので、令和3年度においては端末操作等の研修会を実施し、1人1台端末の授業内での活用に向けて取り組む必要がある。 また、休校等によるオンライン学習に備えて整備したモバイルWi-Fiについては、通信費の確保や家庭への貸出に関する仕組みづくりを行い、感染症等の理由による休校期間中においても、ICT機器を活用した遠隔学習が行える環境を整える必要がある。			
A				
外部評価	GIGAスクール構想の早期の実現が進み、各情報機器等が早急に整備された事は評価できる。今後は対面授業と遠隔・オンライン授業のハイブリッド化が予想されるので、情報機器の使用法「使い方」についてのきめ細かな研修を実施して欲しい。また、ネット環境が整わない家庭へのWi-Fiルーターの通信費の課題は予算等の確保に努めて欲しい。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	8,819 千円	10,536 千円	18,190 千円
事業概要	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮の運営を行う。		
(1) 対 象	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮へ入寮する児童生徒(小4～中3)		
(2) 目 的	学校の存続が危ぶまれる鳩間島において、留学を支援する鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮を運営し、留学生を受け入れることで安定的に児童生徒を確保すると共に、地域の活性化を図る。		
(3) 事業内容	①寮監の雇用(地域おこし協力隊) ②留学生の受入(定員8名) ③寮監や留学生による地域活性化(地域行事等への積極的な参加)		
(4) 成果目標	留学生の受け入れ(定員8名)		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルスの影響により、4月の入寮が延期されるなど、対応に迫られた1年であったが、入寮式当初においては、6名を受け入れることができた。年度途中での退寮や新規入寮もあり、最終的には5名の卒業となった。 なお、新型コロナウイルスの影響もあり、地域行事の中止や帰省後の自宅待機等、地域との交流の場を作ることが困難な一年であった。		
	【課題等】 本施設は、主に県外からの留学生を受け入れるケースが多く、感染拡大防止対策としての制約(県外へ渡航した場合、帰島後1週間自宅待機等)による寮生及び寮監の負担増加や、次年度の募集に向けた留学体験受入れの体制づくりに難しい点がある。 令和3年度においては、集落支援員、地域おこし協力隊の制度を活用し、寮監3名体制に向けた取り組みや、引き続きコロナ対策を行いながらの留学生活、募集活動を実施する。		
A			
外部評価	コロナ禍において、県外からの留学生を受け入れる困難があったが、しっかりと卒業生を送り出した事は大きい成果として評価できる。今後も、厳しい運営が予想されるが、地域と一体となりコロナ対策を踏まえ、安心・安全な寮生活および学習環境を継続構築して欲しい。また、同じように県外からの留学生を受け入れている県内の各施設との連携も、方法論として考慮し地域及び留学生の期待に添えて欲しい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	幼稚園預かり保育事業	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	8,044 千円	9,584 千円	8,857 千円
事業概要	幼稚園教育時間終了後、幼稚園管理下において希望する在園児を預かり保育することにより、幼児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育て支援を図る。		
(1)対象	幼稚園教育時間終了後、家庭内保育が困難な幼児(4歳、5歳)		
(2)目的	幼児の心身の健全な発達及び保護者の子育て支援		
(3)事業内容	幼稚園教育時間終了後から午後5時までとし、また、夏季休業時は、午前8時30分から午後5時までの預かりを実施。		
(4)成果目標	保護者のニーズにあった保育を推進する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 共働きで、自営業を行っている家庭が多く、申し込みが増えており預かり保育の需要が増加傾向にある。 ② 保育料無償化により無料で利用できるようになったことで、保護者の負担が減った。		
	A	【課題等】 ① 預かり保育希望者の増加に伴い、保育者の人材が必要となるが人材確保が難しい。 ② 保育料無償化に伴い職員の資質向上が求められる中、預かり保育を対象とした研修会開催の検討。	
外部評価	平成27年4月より本格施行されている「子ども・子育て新制度」に伴い、子どもや子育ての積極的な支援が本町にも求められている。これを踏まえ、幼稚園での預かり保育は自治体としても推進すべき事項であり、事業形態は評価できる。しかし、課題にあるとおり保育支援員等の人材不足や保育の質の向上が今後求められてくる。預かり保育担当者の賃金の引き上げや、町長部局の福祉支援課が開催する「子育て支援員」の研修等の参加を促す事も人材確保や保育の資質の向上に繋がっていくことを考慮して欲しい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	5,504 千円	11,963 千円	24,407 千円
事業概要	町内幼稚園・小学校・中学校に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に係る支援員を配置する。		
(1)対象	支援員の支援を要する町内の園児・児童・生徒		
(2)目的	発達障害等により学習や生活面に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に対して特別支援教育支援員を配置し、児童生徒に応じた適切な支援を行う。		
(3)事業内容	①各園、小中学校からの支援員要請を受け、概ね1日6時間、週30時間の間で、学校長の指導の下、担当教員と協力し、対象園児児童生徒に学習支援を中心に学校生活上の介助等、適宜に支援を行う。		
(4)成果目標	当該幼児児童生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮、支援の工夫等による学ぶ意欲や社会性の向上。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 支援員の配置により、支援が必要な園児・児童・生徒の適切な支援が行われ、落ち着いて学習に向かうことにつながっている。また、支援員配置により、担任の負担が軽減され、安定した学級経営が図られた。 ② 幼稚園・小中学校における特別支援教育に関する教職員の意識の向上にも繋がり、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の理解と実践に繋がっている。		
	【課題等】 例年、特別支援教育支援員の人材の確保が難しい。		
外部評価	特別支援教育の理解・認識が高まる中、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育をめぐる状況は、今後とも学校教育において重要課題として取り上げられてくる。特に、支援を要する子どもを学級の中で協働かつ自立支援の教育に結びつけるためにも支援員の配置は必須である。しかし、課題にあるとおり支援員の確保が問題であり、他の部局との連携を深め支援員の賃金の引き上げ等を進め、人材確保に努めて欲しい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業 (外国青年招致事業含む)		担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	12,492 千円	13,217 千円	14,261 千円	
事業概要	町内幼・小・中学校にALTを派遣することにより、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図ることを推進する。			
(1) 対 象	竹富町内の幼稚園、小学校、中学校の幼児、児童、生徒			
(2) 目 的	幼児児童生徒の国際感覚の醸成や英語への興味・関心を高めるとともに、中学校の英語教育、小学校の英語教育及び英語活動の充実に資する。			
(3) 事業内容	1. 中学校における英語科授業の補助 2. 小学校及び幼稚園における外国語活動等の補助 3. 英語教材作成の補助及び英語能力関係事業などへの協力 4. 幼・小・中学校への特別活動及び課外活動への協力			
(4) 成果目標	① 町内の幼・小・中学校にALTを派遣し、幼児児童生徒に生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供する。 ② 幼児児童生徒の外国語(英語)への興味・関心の向上を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 各小・中学校へ年間24回、幼稚園へ年間10回ずつALTを派遣できた(船便の欠航等により派遣できない場合は、オンラインを活用した)。 ② 児童生徒へのアンケートの結果から「ALTの授業は楽しみか」「英語をもっと話せるようになりたいと思うか」の問いに対し、約8割の児童生徒が「あてはまる」と回答し、「どちらかと言えばあてはまる」と回答した児童生徒の割合は95%以上であった。このことから、ALTの派遣により児童生徒の外国語(英語)への興味・関心が高まっていると捉えることができる。			
	【課題等】 派遣校(園)の担当教諭との更なる連携及び園児児童生徒の実態に応じた指導の工夫。			
外部評価	急激なグローバル化が進む中で、学校教育における外国語の指導は、新学習指導要領における小学校での教科としての扱いなどを踏まえ、今後さらに重要視されてくる。その中で、本事業も国際化社会で子ども達が自己の能力を発揮するための事業であり良好だと評価でき、今後も継続して欲しい。特に、注意点としてはJETプログラムの活用に関しては、任期終了時の引き継ぎについて留意する必要がある。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町外等派遣費補助事業 (沖縄振興特別推進交付金)		担当課	総務課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	4,393 千円	2,745 千円	6,657 千円	
事業概要	竹富町の児童生徒の大会等への参加に係る派遣費について、交付要綱にもとづき補助金として交付する。			
(1) 対 象	竹富町立小中学校に在籍する児童生徒			
(2) 目 的	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を補助し、保護者の負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成に寄与し、沖縄本島等と離島の格差是正を図る。			
(3) 事業内容	竹富町立小中学校の児童生徒の大会等への派遣にかかる経費のうち、船賃(実費)・宿泊費(上限あり)・航空賃(上限あり)を要綱にもとづき補助金として交付する。			
(4) 成果目標	町外等派遣に係る保護者負担を軽減するとともに、大会等参加により他島の児童生徒との交流や島内よりも高いレベルの競技者との試合等町内ではできない経験を行うことで、子どもたちの心と体の健やかな育成を促す。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 本事業については、継続的に実施することにより学校・団体・個人にも周知され、大会・コンクール等への積極的な参加や好成績(八重山代表として県大会及び沖縄選抜メンバーで県外への派遣等)を残す児童生徒の活躍も年々増えてきた。学校や保護者への成果指標アンケートでも、95%以上が「町内ではできない経験を行うことができ」また「それによって刺激を受け、成長することができた」と回答が得られている。			
	A	【課題等】 ①代表選抜や、八重山地区大会での勝利、また天候その他による大会の中止等、予測がつきにくい要素も多くあるので、現状に合わせ柔軟な予算の増減や配分が必要とされる。 ②コロナウイルス感染拡大防止の影響により中止となる大会が非常に多く、実績額はだいぶ少なくなった。先の見えない状況ではあるが、きめ細かく対応していきたい。 ③選抜メンバーの町外での合同練習に係る経費も補助してほしいという声が多数あった。		
外部評価	島嶼地域で、かつ、ほとんどが極小規模校の本町では、多くの子ども達との交流の機会が少ないのが現状である。交流の機会を増やし、豊かな心や健やかな体の育成を図るためにも、スポーツ面、文化面でより積極的な交流が必要だと考える。本事業での補助は交流の場を増やし、子どもが夢や希望に向けてチャレンジする為に必要であり、現在のコロナ禍においても継続しておかなければ成らない事業である。課題としては、沖縄振興特別推進交付金後の財政確保であり、より創造性を持って事業継続に力を傾注して欲しい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	離島高校生修学支援事業 (離島高校寮生修学援助奨励事業)	担当課	総務課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	(修学支援) 12,815 千円	(修学支援) 13,767 千円	(修学支援) 16,170 千円
	(寮生) 7,227 千円	(寮生) 6,558 千円	(寮生) 7,590 千円
	(合計) 20,042 千円	(合計) 20,325 千円	(合計) 23,760 千円
事業概要	高等学校教育の円滑な修学にあたり、通学に要する交通費、及び居住費を助成する。		
(1) 対 象	保護者が本町に住所を有し且つ在住しており、その対象となる生徒が町立中学校を卒業し高等学校に修学している者		
(2) 目 的	保護者の経済的負担の軽減、教育の機会均等により地域社会に有為な人材を育てるため、通学費等の一部を補助金として交付する。		
(3) 事業内容	○修学支援: 通学に要する経費、及び居住費(アパート、下宿、寮費等) 上限額24万円を補助。(補助対象事業: 国庫1/2、県費1/4、町1/4(起債)) ○寮費: 修学支援費の上限24万円に満たない差額分を、補助金として交付する。		
(4) 成果目標	高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 年間3回の申請時期を設け、生徒1人あたり24万円(上限)を補助することで、高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等が図られた。また、上限額に満たない差額分について、離島高校寮生修学援助奨励金交付事業で補助金として交付することで、寮生の修学を援助し奨励した。		
	【課題等】 町内(島内)に高校が未設置であることから、年々八重山郡外への進学も増えている傾向にある。引き続き事業の周知に努め、保護者負担を軽減し、進路選択の自由と十分な学びの機会を確保する必要がある。		
外部評価	A		
	A 高等学校が未設置な本町においては、高校進学にかかる保護者の負担は大なるものがある。本事業は保護者の負担軽減と、子どもの将来の夢実現のためには重要な事業であり、ひいては本町発展の人材育成に寄与するもので、事業結果は大いに評価できる。特に、親類縁者がいない地域での生活は、勉学と生活の両立が厳しいと考えられるため、継続して事業を展開して欲しい。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ふるさと応援奨学金	担当課	総務課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	1,800 千円	3,000 千円	4,800 千円
事業概要	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。		
(1) 対 象	竹富町に1年以上住所を有する者の子、または扶養にある者		
(2) 目 的	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。		
(3) 事業内容	奨学金を給付する期間は、正規の終業期間とし、月額50,000円とする。就職する期間については、最低、正規の修業期間の2倍の期間とする。		
(4) 成果目標	専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給することで、その人材育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R元年度3名、R2年度5名の対象者へ支給を実施した。 (R元年度の対象者進学地:沖縄本島1名、県外2名) (R2年度の対象者進学地:沖縄本島1名、県外4名)		
	【課題等】 引き続き制度の周知に努め、必要とされる学生に支給することで、本人及び保護者の経済的負担を軽減し、竹富町の将来を担う人材育成に寄与していきたい。		
A			
外部評価	本町の課題の一つが人材の確保であり、本事業において人材が育成され、かつ本町に関係する人材を還流できる唯一の事業であり、その成果が令和2年度に現れたことは大いに成果として評価できる。特に、専門職にあっては人材確保が急務であるため、引き続き事業を展開する必要がある。本事業に関する広報活動をさらに進め、多くの人材が確保できるように努めて欲しい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	放課後子ども教室委託事業		担当課	社会文化課
事業費	令和元年度実績額	令和2年度実績額	令和3年度予算額	
	882 千円	886 千円	1,150 千円	
事業概要	放課後等に学校の施設(余裕教室・体育館等)を利用して、子どもたちが安全かつ安心して活動できる拠点を設け、地域住民の参画を得て、学習活動や様々な体験・交流活動を通して地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。			
(1)対象	教室を委託設置した校区内の小中学生を対象			
(2)目的	放課後の子どもたちの、安全で健やかな活動場所の確保を図る。			
(3)事業内容	【令和2年度実施団体名】 ①黒島小中学校(黒潮っ子放課後子ども教室) ②古見小学校(古見っ子放課後子ども教室) ③竹富小中学校(こぼし放課後子ども教室) ④小浜小中学校(まいふなっ子放課後子ども教室) ※国庫補助＝4教室			
(4)成果目標	・ 地域の方々の協力を得て、学習活動、文化、スポーツ活動に取り組むことにより、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ・ 学校・家庭・地域による共同の取組により、「地域の子どもは地域で育てる」との環境及び意識の向上を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 学校と地域が協力し、放課後の子どもたちの安心安全な居場所を確保するとともに、スポーツ、伝統芸能の習得、教科の予習復習等、有意義な各種活動を行えた。地域住民の方々がボランティアや各種活動の講師として参加することにより、地域との連携及びコミュニケーションが図られている。 令和2年度は、4校(黒島小中学校・古見小学校・竹富小中学校・小浜小中学校)で実施し、それぞれの教室で子どもたちの知識や技能の向上が図られた。			
	A	【課題等】 ①ボランティアで運営協力していただける方や教育活動サポーター、講師等の人材確保にも引き続き努めなければならない。 ②竹富町子ども・子育て支援事業計画では、放課後の子どもの居場所づくりに対する方針について、放課後子ども教室の取り組みを充実することで、放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業)を補完するとしていることから、各地区で取り組むことができる体制を確保する必要がある。取り組みへの理解を深めるための周知方法も検討しなければならない。		
外部評価	A	社会が多様化する中、放課後の子どもの「居場所づくり」が課題の一つとして近年クローズアップされている。特に、子どものゲーム依存など、帰宅後の生活で人との関わりが希薄になりつつある。本事業においては、学校と地域がよりパートナーとなり、子どもの健全育成の力となる事業目的は達成できていると評価できる。今後は、参加団体が増えコミュニティの力で子どもの健全な居場所が確保される「地域力」の発展に繋がることを期待したい。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	生涯学習委託事業(社会教育学級)		担当課	社会文化課
事業費	令和元年度実績額	令和2年度実績額	令和3年度予算額	
	840 千円	791 千円	1,050 千円	
事業概要	町民の生涯にわたる学習の機会を充実するため、委託事業者が社会教育事業を開設し、運営に必要な経費の定額を支給する。			
(1)対象	町民(町内の社会教育関係団体)			
(2)目的	青年教室・婦人学級・家庭教育学級室・成人大学講座を各種団体へ委託し、生涯学習の機会を提供する。			
(3)事業内容	【令和2年度実施学級及び団体名】= 6教室 ■青年学級=1教室 ・細崎公民館青年部(細崎ふるさと創生学級) ■成人大学学級=1教室 ・祖納公民館(祖納公民館大竹祖納堂学級) ■婦人学級=4学級 ・波照間婦人会(波照間婦人学級) ・小浜婦人会(小浜ちゅらさん学級) ・大富婦人会(大富マングローブ婦人学級2020) ・祖納婦人会(伝統文化とつながる暮らし学級)			
(4)成果目標	・それぞれの講座及び教室終了後、地域のリーダーとして生涯学習の実践者になっていく。 ・地域において学習の成果をさらに広めていく。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 地域特性や人材を生かした計画を立案し、生涯学習の場として各年齢層が繋がりを持った活動が行え、地域の活性化も図られた。また、各教室の活動は地域の歴史や文化、伝統芸能等の習得・継承に大きく貢献できている。			
	【課題等】 事業実施(計画立案を含む申請～活動運営～実績報告)について、申請手続きの簡素化等を検討し、多くの団体が本事業を活用しやすいように周知を継続的に実施しなければならない。			
A				
外部評価	生涯において学び続け、また、学び直しのリカレント教育は、より良き人生を営む支えとなるものである。本事業もその一翼を担う活動であり、様々な年齢層の結束により、地域の活性化にも繋がり、伝統文化継承を含め地域の財産の継承にも寄与するものである。本事業が継続されている事は評価できる。できれば、その活動等が文献資料として残すことで、さらに本事業の目的達成が高まるであろう。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	社会教育団体育成補助事業		担当課	社会文化課
事業費	令和元年度実績額	令和2年度実績額	令和3年度予算額	
	2,308 千円	1,975 千円	2,670 千円	
事業概要	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助			
(1)対象	各種社会教育団体(公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等)			
(2)目的	各種団体における学習機会の提供と自主的な活動を支援し、豊かな人間性と団体の資質向上を図ると共に地区の活性化を図る。			
(3)事業内容	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助			
(4)成果目標	各種団体への活動支援を目的とした育成補助を行い、団体の資質向上と指導者の育成を図り、各種団体の活性化を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 各種団体がコロナ禍により制限された活動も多数あったが、活動補助金として交付することにより、創意工夫した活動が展開され、地域貢献や人材育成へ活かされた。			
	【課題等】 各種団体の取組みについて、社会教育委員又は社会教育指導員が積極的な指導助言等を行い、活発な活動が実施できるよう環境づくりを含め継続的に支援する。			
A				
外部評価	近年、人と人との関わりが希薄となり、地域コミュニティの低下も課題となっている。本事業は地域の各種団体への補助により、地域活性化が図られる事業である。地域の発展は、ひいては町全体の発展に繋がるものであり、その土台となる本事業の持つ重要性を考えると、さらに継続発展が必要だと考える。特に、社会教育員が配置されている事により、各社会教育団体の活動活発に繋がるものであり、引き続き社会教育員の配置が必要だと考える。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	文化財美化保全事業 (沖縄振興特別推進交付金)		担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	3,189 千円	2,838 千円	3,260 千円	
事業概要	指定文化財の美化・保全			
(1) 対 象	竹富町内の国指定文化財、沖縄県指定文化財、竹富町指定文化財			
(2) 目 的	指定文化財の利活用を図るために美化・保全を行う。本町の有する多くの文化財美化保全を推進し、本町特有の歴史文化や景観を恒久的に維持し、歴史文化財を活用し、観光資源として活用し地域の文化財保護振興を図る。			
(3) 事業内容	文化財指定地において、雑草や雑木の除去作業等の美化・保全を行い、見学者及び観光客に利用しやすい環境を整備する。			
(4) 成果目標	地域の文化財愛護の意識高揚が期待されるとともに、指定文化財等が生涯学習の場として活用されることや、来訪する観光客の満足度が高まることを期待する。指定文化財16箇所、指定候補文化財7箇所の美化保全清掃を実施する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 沖縄振興特別交付金事業により、町内各地に所在する文化財の美化保全事業として清掃を行った。 ○ 竹富島⇒小城盛、西棧橋、蔵元跡、新里村、ミーナ井戸、トゥンナ井戸 ○ 西表祖納⇒大竹祖納堂儀佐屋敷跡、慶来慶田城翁屋敷跡、大平井戸 ○ 鳩間⇒東井戸(アンヌカー)、鳩間中森 ○黒島⇒プズマリ ○ 波照間⇒下田原城跡、シムスケー、コート盛 ○ 新城⇒タカニク、ターヌホー道、クイヌパナ、クイヌパナ道 【課題等】 地域公民館との委託契約としているが、黒島のプズマリは高所作業であり、安全に作業ができるよう特殊機材を持っている民間事業者と契約を交わしている。			
	A			
外部評価	地域と委託契約を結び、地域で文化財の美化・保全に努めることは、祖先の偉大さを知るとともに文化財を大切に、後世に残そうとする意識の高揚につながる。担当課のみでなく地域と共に連携し保全に努め、担当課は、予算の確保や特殊機材を用いるような場面で支援対応していることは高く評価できる。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統的建造物群保存地区の景観保全		担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	15,464 千円	2,622 千円	21,691 千円	
事業概要	伝統的建造物群保存地区における修理や修景及び現状変更行為に対する許可や指導等			
(1) 対 象	竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区			
(2) 目 的	重要伝統的建造物群保存地区(昭和62年4月28日)の選定を受けた竹富島の集落景観を、その価値を維持するために必要な事業を行う。			
(3) 事業内容	竹富島の集落景観を構成する建造物等のうち、歴史的な景観価値を有する保存物件の保存修理工事の補助や、修景が必要な物件の修景工事を補助することによって、集落景観の保全を図る。			
(4) 成果目標	老朽化が進む保存物件の修理を進めるとともに、現状変更行為に対して適宜指導を行い、景観保全を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ①竹富町重要伝統的建造物群保存地区・保存対策費補助事業として、屋根赤瓦葺き板壁張りの保存物件3件(主屋3件)の修景に係る補助金交付を行った。 ②年度内に2回の伝建審議会の開催を行うことができた。 ③台風の影響や経年劣化による保存物件の瓦ズレ等の修理の申請があった。			
	【課題等】 ①保存修理の必要な保存物件が多数残されているが、所有者本人の負担も大きい事が支障となっている。 ②台風や大雨などにより保存物件に被害があった場合でも国庫補助金申請から工事着工まで約2年がかかる。2年の間、被害にあった物件を放置しておくことは、被害の拡大に繋がり、保存物件の消失にも繋がりがねないため、迅速な修理措置が必要である。国庫補助の補助金交付までの繋ぎとして、町独自の補助の仕組み等を検討する必要がある。			
外部評価	委員会会議(定例会)において毎回、本事業について取り上げ、問題に対処している事は、担当課の思いや責任感が伺える。			
	伝統的建造物群保存に關しての修理や修景及び現状変更行為等に対する国庫補助金申請から工事まで2年かかることから、早急に町独自の補助の仕組みを確立し、即対応する体制づくりが必要である。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	史跡等活用整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	3,021 千円	16,035 千円	39,455 千円
事業概要	史跡の調査及び修理工事と説明板設置		
(1) 対 象	町内史跡や国指定史跡の調査及び修理、説明板設置		
(2) 目 的	町内に多く残る史跡は、指定の有無に関わらず地域の成り立ちや文化を伝える貴重な地域遺産である。史跡の調査や修理を行い説明板を設置することで、後世へ継承する。		
(3) 事業内容	毀損した史跡の修理や、町史跡の調査等を行う。		
(4) 成果目標	貴重な史跡が滅失しないよう適時対応するとともに、測量等で事前に記録を残すことで不測の事態にも対応可能な資料作成する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成 果】 ① 国指定史跡コート盛レーザー測量および崩落個所の修理(波照間島) ② 町史跡コーキ原のガジュマル群周辺整備測量設計委託(小浜島) ③ 町史跡コーキ原ウティスク遺跡測量業務(小浜島)		
	【課題等】 ①火番盛は各島々に点在しており、計画的に全火番盛の記録を残す必要がある。また、各火番盛は国指定になってからの説明板が無いことから、順次説明板を設置していく。 ②小浜島北部の手つかずの地域に残る町史跡である、ガジュマル群落周辺・ウティスク遺跡は未調査であることから、正確な範囲と位置を確定する必要がある。また、今後は貴重な文化財の公開活用を見据えて長期の計画として、周辺遺跡の範囲調査を行う他活用に必要最低限の整備を行っていくことが求められる。小浜島に限らず、未指定の史跡については、失われる前に記録保存を行う必要がある。		
外部評価	整備事業においては、担当課の頑張りは、高く評価できる。反面、活用の面での対応が弱い。国指定史跡の説明板設置や未指定の史跡の記録保存にも努めて欲しい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	旧与那国家住宅保存修理	担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	0 千円	16,598 千円	21,720 千円
事業概要	旧与那国家住宅附とーら・浴室及びボイラー室保存修理工事		
(1) 対 象	旧与那国家住宅附とーら・浴室及びボイラー室		
(2) 目 的	国の重要文化財建造物である旧与那国家住宅の附とーらの浴室天井が崩落したことから、修理工事を行う。		
(3) 事業内容	国庫補助を用い、文化庁の指導を受けながら2年計画で修理を行う。		
(4) 成果目標	修理を完了する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成 果】 国指定重要文化財建造物であることから、文化庁の指導のもと、文化庁が許可をした修理指導員に監理を依頼し、浴室の天井部分の修理ととーらの耐震診断を行った。		
	【課題等】 国庫補助により、2年計画で事業を行うことになっている。 重要文化財建造物は原則として同じ材を使用することになっているが、今では入手できない材も多い。町が借用していた古材保管庫も1棟は返還したことから、古材は屋外に置かれている。また、瓦職人の不足や竹富島で使用してきた瓦や土の準備など、伝統的な手法を伝承していく為には、後継者の育成が急務である。竹富島の場合、伝統的な工法が途絶えると伝建地区内の修理事業にも支障をきたす恐れがあることから、後継者の育成が必要不可欠である。		
外部評価	文化庁指導の下、2年間をかけ修理工事を終えたことととーらの耐震診断を終えたことは高く評価できる。		
	国の重要文化財建造物保存のための課題(古材の保管や修理する職人の育成)解決のために文化庁の指導受け、取り組む必要がある。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業		担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	0 千円	11,998 千円	18,000 千円	
事業概要	町立博物館整備に向けての基本構想を策定する。			
(1) 対 象	竹富町内の文化財等			
(2) 目 的	町の歴史・文化・自然を総合的に学ぶ文化振興・観光交流拠点となる施設の早急な整備が求められていることから、整備に向けての基本構想を策定する。			
(3) 事業内容	博物館機能だけではなく、町が必要とし且つ求められている文化振興・観光交流拠点機能を明確にし、施設整備に向けた基本構想を策定する。			
(4) 成果目標	基本構想を策定する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成 果】 全4回の基本構想策定委員会の中で、拠点施設の必要性や基本理念、施設機能、基本方針等、整備の前提となる基本的な考え方を検討・整理し、候補地の選定や施設の規模等を検討した。 拠点施設を西表島東部に置き、各島々のサテライト施設と拠点施設を結ぶことで、従来のようにすべてのものを1か所に集めるのではなく、各島々に足を向けて実際に現地で現地のものを鑑賞する新しい博物館の在り方を提案した。			
	【課題等】 一括交付金を活用し、基本構想を策定した。 本庁との連携が不可欠であることから、より密に連携を取りながら今後の事業を進めていく必要がある。			
外部評価	基本構想策定委員会を設置し、全4回会議の中から、町の歴史・文化・自然を総合的に学ぶ施設の拠点としての博物館構想は素晴らしい。特に各島じまの良さを生かすサテライト施設と拠点施設を結ぶ博物館の在り方は、竹富町ならでの構想である。			
	博物館機能だけでなく、文化振興・観光交流拠点機能を明確にした施設を検討し、新しい事業へ一歩踏み出したことは高く評価できる。			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町史編集事業	担当課	社会文化課
事業費	令和元年度実績額	令和2年度実績額	令和3年度予算額
	4,394 千円	1,648 千円	1,667 千円
事業概要	『竹富町史 第11巻 資料編 新聞集成 VIII』、『竹富町史だより』(第46号)〈第47号〉発刊		
(1)対象	竹富町民、一般人、研究者		
(2)目的	竹富町の先人たちが築いてきた特色ある町の歴史や自然を島々の個性を際立たせて位置付けながら、編集・発刊を行うこと。それにより町民一人ひとりのみならず、竹富町の先人の顔を思い浮かべることができる親しみやすいものとする。これらが島のかげがえのない宝、共有財産として後世に引き継ぎ、豊かな町(島)づくり、人づくりに資することを目的とする。		
(3)事業内容	竹富町史刊行物の編集・発刊		
(4)成果目標	地域を知るための基礎資料として親しまれ、かつ学術的にも信頼される町史編集事業		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①『竹富町史 第11巻 資料編 新聞集成 VIII』を刊行することができた。本シリーズは竹富町に関する新聞資料を集成したもので、本書は地元紙から1966年(昭和41)の803件の記事を精選し、附録「資料紹介」「1966年の小浜島」を収録したものである。基礎資料的な性格であるが、単なる資料の羅列に留まらず、附録は地域(とりわけ小浜島)に焦点を合わせた親しみのもてるものである。今後、地域づくりの基礎資料、または地域史研究に寄与することが期待できる。 ②『竹富町史だより』は町民を対象とした機関誌である。内容は今後『西表島編』を編むにあたって参考となるばかりでなく、西表島を知るための手立てとなるものでもある。また、〈第46号〉は「竹富町とコロナ・コレラ・アレコレ」と題し、歴史にみる感染症の流行を見直した。町内全戸に配布し多くの方々の手に渡ると同時に、広く町史編集事業をアピールできた。 【課題等】 新聞集成シリーズの体裁を変更し、そのため調整に時間を要した。資料集の刊行と、「島じま編」の編集・発刊を同時に進行していくための、スケジュール管理が大きな課題である。		
	A		
外部評価	膨大な資料を集め、それを編集し1冊の本にまとめることは、大変な時間と多くの労力が必要である。「竹富町史 第11巻 資料編 新聞集編 VIII」が発刊することができたことは、高く評価する。今後は、「資料集」の刊行と「各島じま編」の編集・刊行の完成を期待する。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校等施設の維持管理		担当課	総務課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	13,822 千円	23,652 千円	10,748 千円	
事業概要	学校施設等の修理・修繕及び維持管理上必要な施設の整備			
(1)対象	竹富町立幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場及び教員宿舎			
(2)目的	学校施設等の中には、経年劣化や自然災害等によって園児及び児童生徒の安全・安心が失われるおそれがあるため、修理や修繕等の整備を行い、学校環境の安全・安心を図る。			
(3)事業内容	学校施設等の現況を調査し、破損箇所や腐食した箇所を修理・修繕し、安全・安心な学校環境の維持・管理。			
(4)成果目標	年次的に学校施設等の修理・修繕等を行い、快適で安全・安心な学校環境の整備を進める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 令和2年度においては、幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場・教員宿舎等、緊急的なものを優先し修理・修繕等を行ってきた。 ② 令和元年度国庫補助事業(危険改築、不適格改築工事)である繰越事業の波照間中学校校舎・施設改築工事につきましては令和2年度に完成いたしました。 ③ R2年度より、沖縄県学校施設環境改善事業交付金(沖縄振興公共投資交付金)における、屋外教育環境施設整備事業にて西表小学校グラウンド整備工事の設計業務委託を行った。			
	B	【課題等】 ① 多くの修理・修繕箇所の要望があり、予算を確保しながら学校環境の整備を図るとともに、本町公立学校施設整備事業長期計画を作成し、安心・安全・快適な学校施設など教育環境の充実に努める必要がある。 ② 公共施設等管理計画に基づき、建物の長寿命化にむけた個別施設計画の策定に必要な情報の整理が急がれる。		
外部評価	安心安全な学校教育を継続発展するためには、学校環境の整備はその根幹を担うものであり、本事業の重責をしっかりと果たして欲しい。特に、本町においては他県と違い塩害等の劣化が進みやすいことや、台風など災害時における被害対処が課題である。よって、経年劣化によるコンクリート片の落下や設備の点検等で事故が発生しないように、園、学校との連携を多くとり、迅速な修理・点検に努めて欲しい。課題解決の糸口としては、施設担当職員の増員等も行政の勤めだと思ふ。			
	B			

令和2年度 教育事務点検総合評価

■教育委員会の機能充実

総合評価	[A]	学習指導要領の改訂やGIGAスクール構想に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大などで、時代は急激に変化し「予測困難」と称されている。その中においても、学校教育や社会教育を支える教育委員会が担う責務は大なるものがある。令和2年度においては、この急激な変化に対応する教育行政がほぼ遺漏、遅滞なく業務が遂行されており、町民の期待に添える教育行政の執行がなされてきたと評価する。今後は、学校教育・社会教育に課された課題解決のために、更なる創造性と積極性をもった教育行政が推進される事が重要でありその努力に期待したい。
1 教育委員会の概要	[A]	・教育委員会制度の意義である「政治的中立性の確保」「継続性、安定性の確保」「地域住民の意向の反映」がなされており、独立性と教育長を中心とした合議制、さらに住民による意思決定(レインマンコントロール)で教育委員会が運営されている。 ・教育主要施策に関しては、新学習指導要領や中教審答申、県の教育施策を注視し整合性と弾力性、加えて本町の独自性を加味した新施策体系を構築する必要があると考える。
2 教育委員会の概要と会議の状況	[B]	・定例会、臨時会が漏れなく開催されており、教育委員会としての意見の集約が成されている。会議内容が報告事案が多数を占めているが、事務点検としての教育員会議の役割を發揮できるような活気ある会議を期待したい。 ・コロナ禍であり教育に関する課題が山積しているなか、総合教育会議が一度も開催されなかった事は残念である。首長との連絡・調整は喫緊の場合は特に必要であり、今後の開催について検討して欲しい。
3 教育委員会の情報収集状況	[A]	・コロナ禍により、教育委員の学校視察が出来なかった事は残念である。教育委員が学校の現状を知るためには、今後このような事項も考え学校長と教育委員のオンライン会議の設定に取り組んで欲しい。 ・国、県の教育施策に対応し、本町の特色を活かした教育施策の実現の為に、オンラインの研修も含め教育研修には是非多く参加して欲しい。また、現在の教育状況を学ぶためにも、教育専門家を招聘しての委員会全体を網羅した研修会の実現も考えて欲しい。 ・指導主事の学校支援が、コロナ禍においても隙間なく行われている事は大きく評価できる。島嶼地域であるため、継続した支援を期待したい。
4 教育委員会事務局の組織及び職員配置	[A]	・現在の3課体制は教育委員会の組織としてスムーズに運営されており、現体制を継続していくことが望まれる。 ・人員定数に関しては、専門的分野での人材確保に引き続き努力するとともに、休職等の欠員が出た場合には迅速な補充に努めて欲しい。
5 教育行政	[A]	・子供の学びや教職員を支える環境作りや、新たなICT環境・先端技術等の整備が進んでおり、学校への支援・指導が確立されていると評価できる。 ・今後の課題としては、教育予算の恒常的な確保とハード面の整備に加えこれを活用発展させ、子供達が持続可能な社会の創り手になれる人材育成や社会教育全般において住民の付託に答える教育行政に努めて欲しい。

■幼稚園・学校教育の充実

総合評価	[A]	・幼稚園においては、新幼稚園教育要領の実施に伴い、創意工夫した幼児教育が実践されている。今後は、小学校との円滑な接続や評価を通じたPDCAサイクルを構築し、質の高い幼児教育の実践に努めて欲しい。また、課題である人材確保においては町部局と連携し、課題解決に努めて欲しい。 ・小中学校においては、「生きる力」の基本である「学力向上」が創意工夫の基に実践されており、特に本町の特色を活かした海洋教育推進事業は児童の主体的な学びに結びつく事業であった。今後は、事業のまとめとより発展的な学習が展開されることを期待したい。さらに、令和の日本型学校教育の姿である「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現に努めて欲しい。
------	-------	---

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	ホームステイ事業	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	3,052 千円	0 千円	1,860 千円
事業概要	町内に在学する中学2年・3年生を対象に、希望者を募り海外（米国ワシントン州シアトル）へ約3週間ホームステイを行い、異文化体験や英語の語学学習を行わせる。		
(1) 対 象	町内在学の中学2年・3年生を対象		
(2) 目 的	将来の日本を担う青少年が、異文化体験を肌で感じ外国語の学習と実践を通じて、真の世界平和樹立に貢献できる人材育成と国際感覚を身に付けさせることを理念に海外研修を実施する。		
(3) 事業内容	沖縄タイムス海外ホームステイ事業の中に組み込み、町内中学生を対象に募集を行い、面接試験を課した後、3名を約3週間の日程で米国ワシントン州シアトルに派遣し、現地の受け入れファミリーの中でホームステイを行う。		
(4) 成果目標	研修終了後に提出する報告書や報告会において、異文化理解や語学（英語）の学習が身についているか。さらに、諸調査等で英語の平均正答率が伸びているかを判断する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大により、沖縄タイムス海外ホームステイ事業の中止に伴い、本事業も中止となった。		
	【課題等】 ①現地へ派遣ができない場合の代替案。 ②派遣人数増員（5名）のための予算確保。		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	英語サマースクール	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	0 千円	0 千円	211 千円
事業概要	外国語に興味のある中学2・3年生を参加対象とし、英語学習の活動を中心としたプログラムを編成・実施。1泊2日の間は基本、オールイングリッシュで様々な活動に参加し、ALTや各校の英語教諭の支援の下、英語に対する興味・関心やスキルの向上を図る。		
(1) 対 象	外国語に興味のある竹富町内中学2・3年生		
(2) 目 的	外国語に興味のある町内各中学校2・3年生が一堂に会し、積極的に英語で会話をし生活することで、英語に対する興味関心を高めるとともに英語によるコミュニケーション能力を高める。		
(3) 事業内容	プログラム(オールイングリッシュで活動) ・三色綱引き ・自己紹介交流活動 ・外国の伝統的な遊び体験 ・星講座 ・歌 ・クイズショー ・星空観察 ・班会議、班長会議 ・島文化交流		
(4) 成果目標	① 島外の同級生と交流を図ることにより、コミュニケーション能力を育成する ② 言語活動を通して、英語に興味を持たせ、使うことの楽しさを味わわせる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。		
	【課題等】 ① より英語を活用し、英語に触れる活動(言語活動)の充実を図る内容を検討。 ② 実施できないときのための代替案の検討。		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	✓ 小学校集団宿泊学習	担当課	教育課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	318 千円	0 千円	405 千円
事業概要	21世紀を担う竹富町の児童が、自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境で、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、交流を通してよりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を行う。		
(1) 対 象	竹富町内小学校5年生		
(2) 目 的	① 恵まれた自然の中での集団宿泊活動を通して、見聞を広め自然に親しむ。 ② 竹富町内の小学5年生が寝食を共にすることによって、友人を増やし友情を深め合う。 ③ お互いの島の様子や竹富町の様子を知り、郷土に対する理解を深める。		
(3) 事業内容	① 集会活動（オリエンテーション、レクリエーション、班会議、平和学習） ② 体験活動（カヌー体験、野生動物保護センター見学、星空観察）		
(4) 成果目標	① 島外の同級生と交流を図ることにより、コミュニケーション能力を育成する。 ② 体験活動を通して、道徳観・正義感を育成するとともに、生きる力を身につけさせる。 ③ 平和学習を通して、命の尊さについて理解を深める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。		
	【課題等】 ① 感染対策を講じた上での実施を検討。 ② 予備日も含めた日程の調整。		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	学校給食担当者研修会		担当課	総務課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	213 千円	0 千円	395 千円	
事業概要	食事は健康の保持・増進、疾病予防の基本であり、食事づくりに携わる者の役割は大きい。衛生管理対策の徹底等、調理員の業務の再認識及び再確認をし、より良い給食業務の推進を図る。			
(1) 対 象	町内学校給食調理従事者等			
(2) 目 的	給食業務に携わる職員等を対象に衛生管理について研修会を行い、調理員間の交流及び情報共有を図る。			
(3) 事業内容	学校の夏期休業期間を利用し、沖縄県環境科学センターより講師を招き、衛生管理等についての研修会を行う。			
(4) 成果目標	調理施設における衛生管理・食中毒対策について、研修会を通して再確認、再認識をし、安心安全な給食の提供を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 毎年、給食提供のない期間を利用し、「衛生管理について」の研修会を開催している。本町では単独調理場、共同調理場が数箇所あり、各調理員等の交流を行うことが難しいため、年に1度の研修会時に職員同士の親睦を深め課題や問題について相談しやすい体制づくりをおこなっているが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言発令のため、開催を急遽中止とした。			
	【課題等】 研修の場、情報共有の場を増やす必要があると考えるが、給食担当者（調理員）の業務のない日で開催調整をしないといけないため、給食提供のない夏休み以外での開催は厳しいのが課題である。一堂に会しての研修会が実施できない場合の代替え案を検討する。			
外部評価				

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	球技大会	担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	850 千円	0 千円	850 千円
事業概要	お年寄りから青年層まで、気軽に参加できる競技種目を設けることにより、スポーツを通して、町民の健康増進と交流の機会を創出する。		
(1)対象	・竹富町に住民登録を有する者 ・アマチュア競技者		
(2)目的	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。		
(3)事業内容	・ソフトボール ・ソフトバレーボール ・グラウンドゴルフ		
(4)成果目標	大原中学校を主会場に三会場で実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R2年度は、コロナ禍により中止。		
	【課題等】 		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	やまねこマラソン大会	担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額
	3,800 千円	0 千円	2,500 千円
事業概要	西表島特有の大自然を活かしたマラソンコースを設定し、町民をはじめ全国からのジョガーと沿道の地域住民ボランティアの応援・声援で大会を盛り上げる。また、レース後は「ふれあいパーティー」を企画し、参加者、大会関係者スタッフ、住民との交流の機会を創出する。		
(1)対象	・ 3km(八重山郡内の中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(2)目的	日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「西表島の大自然とのふれあい」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(3)事業内容	・ 3km(中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(4)成果目標	大会開催も第27回を数え、全国的にも知名度の高い大会である。出場選手に満足してもらえるよう、コースの安全性を含め職員、地域ボランティアを動員して大会の運営にあたる。また、大会に欠かせない、ふれあいパーティーの企画も各種団体との連携により、地域活性化が図られる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R2年度は、コロナ禍により中止。		
	【課題等】		
外部評価			

事務事業点検評価シート（新型コロナウイルスの影響で実施出来なかった主な事業）

竹富町教育委員会

事業名	国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会		担当課	社会文化課
事業費	R元年度実績額	R2年度実績額	R3年度予算額	
	2,000 千円	0 千円	2,000 千円	
事業概要	島の未来を担う少年少女たちが野球を通して幅広い”交流”をはかり、友情を育むとともに夢と希望と勇気をもつことの大切さの実感、郷土を思う誇りと心を醸成し、島の活性化、人づくりに資する。			
(1)対象	竹富町立中学校(代表選抜)			
(2)目的	地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とする。			
(3)事業内容	野球大会・交流試合・さよならパーティー			
(4)成果目標	離島甲子園に出場できることに感謝の気持ちを忘れず、大好きな野球ができる喜びを感じながら、元気よく伸び伸びプレーし、離島中学生との交流の輪を広げる。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 R2年度は、コロナ禍により中止。			
	【課題等】			
外部評価				

